

四十八年前に卒業した小学校で、六年生を相手に、一齣^{ひとまは}だけ授業をすることにになった。半島の要に位置する山裾の校舎は、今年度限りで取り壊され、建て替るといふ。私が学んだころには新校舎だったから、最初と最後を見つめることになった。廊下の窓からは海峡が一望の下にあり、教室の窓からは山側の運動場が見える。ここで私も、体育の授業や昼休みの遊びで身体を動かしたんだよ、と子供たちに話しながら、窓の下、不規則な模様をなして運動場を駆けめぐる低学年の児童たちを眺めた。

子供と接する機会が日頃から少なく、戸惑いもあった。しかし、滅多にはない機会なので、これしかない、という話にしようと思った。生れたのはあそこの神社の近く、育ったのはあの山間の新興の市営アパート、造成予定地で大人も女の子も一緒にする草野球を覚えて、この小学校に転校してきた。運動場には土俵があった。ボール遊びは公園での草野球のほか、住んでいた駅前の公園住宅の通路での「ロクムシ」。

この「ロクムシ」がひそかなテーマだった。二極の円の間を、ボールを当てられないように走って六往復しようとするチームと、キャッチボール六往復の完遂によって相手の六往復を阻もうとするチームと——両

プロフィール

1950年福岡県生まれ。詩人。多摩美術大学教授。詩集や小説のほか、『ベースボールの詩学』（講談社学術文庫）、『遊歩のグラフィズム』（岩波書店）などの評論がある。最近、極小出版活動《via wwalnuts》を展開中。



或る生還

平出隆

方が競う奇妙なボールゲームが、まだ遊ばれているかどうか。野球の起源を調べるようになってから、ずっと気に懸つてきたあの幼年時代の遊びは、あれはラウンドベース系なのか、クリケット系なのか。

あらかじめアンケートをとった。いま、どんな遊びをしていますか。その絵を描いて、ルールを説明してください。「ロクムシ」が残っていることをひそかに願つて臨んだ授業だったが、直前に渡された集計では、それは影もかたちもなかった。

子供たちの遊びを描いた十八世紀イギリスの小さな絵本のページを、モニター画面に示した。「この絵本はみんなのアンケートそっくり。遊びの光景の絵と、ルールの説明をする四行詩とできています。」

この『小さな可愛いポケットブック』によれば、ベースボールには、大海原に漕ぎ出し、世界を一周しながら財宝を獲て、喜び勇んで故郷に帰る船乗りの譬えがこめられている。「自分の遊びのルールを説明したことを、四行詩に書き直してみてください。」

東京に戻ってしばらくすると、宿題が送られてきた。相変らずそこに「ロクムシ」はなかったが、説明のことは、生き生きとした詩に変わろうとしていた。私は卒業式までに、一冊の絵本に造つて贈ることにした。



1 エッセイ 千字文
或る生還 平出隆

2 特集 知的生産の巨大技術
その舞台裏

- 5 思想の道具化と道具の思想化 篠原 徹
- 7 梅棹忠夫の映像へのまなざし 大森 康宏
- 8 梅棹アーカイブズと知的生産の技術 久保 正敏

10 研究フォーラム
人間は社会的動物か？
齋藤 晃

12 みんなぱく Information

14 地球ミュージアム紀行

「壁」を崩せ
フランクフルトの「ダイアログ・イン・ザ・ダーク」ミュージアム
廣瀬 浩二郎
フランクフルトの暗闇博物館体験記
山中 由里子

16 散策と思索の径
ブダペストの空気
長野 泰彦

18 多文化をささえる人びと
外国人集住地域のまちづくりの課題
——保見団地の取り組み
野元 弘幸

20 歳時世相篇
ディスカヴァリーデー
マゼランに「発見」されたグアム島
印東 道子

22 フィールドで考える
もうひとつのフィールド
緒方しらべ

24 次号予告・編集後記